

原子力・宇宙・海洋などの巨大科学について主催者のパンフレットが否定的に片付けたことは納得しかねる（東大・地球物理の人）。文学部の辞職勧告にみられるように、大学内の新型ファッションは政府、文部省よりも筑波に行つて巨大科学をやりたい仕事熱心な人から発している（東教大の人）。学術会議の長期計画性と科学者の自主性をどう両立させるか（予防衛生研の人）。科学者

の総意で決めるよりない（小野周氏）。有権者の資格を学位保持者に限るとか、学位取得後一定年限以内に限るべきかなど検討中（小林稔氏）などの討論があった。

討論を聞いて私は大学にとって学術会議が予算、創設の勧告、研究会開催など日常活動の場所であるのに反し、官庁研究者が非日常的な一時的な関心を示すに過ぎない点を根底から改めるべきだと思った。

## Ninth International Symposium on Space Technology and Science, Tokyo, 1971

### 第9回（1971）宇宙技術および科学の国際シンポジウム

さて、第9回「宇宙技術および科学の国際シンポジウム」Ninth International Symposium on Space Technology and Science, Tokyo, 1971が、来たる1971年5月17日（月）から同月22日（土）までの6日間、東京都千代田区平河町 日本都市センターにおいて開催されることになりました。何とぞお繰合せご参加下さるよう、なお、できれば研究論文をご発表下さるようご案内申し上げます。

研究論文をご発表下さる場合には1971年1月31日までに、東京都目黒区駒場4-6-1 東京大学宇宙航空研究所 河田幸三教授あて、論文題目（英文）および200語程度の英文概要をお届け下さい。ご発表は英語をお願い致します。そのさい、スライド、フィルムなどをご使用になる場合はその旨ご記入下さい。なお、シンポジウム終了の後に、論文集が刊行される予定でありますから、4000語程度（表および図を含めて）の英文原稿1部を会期第1日の5月17日までに提出頂ければ幸いに存じます。

また、会期中会場の一部で展示が行なわれる計画でありますので、写真、フィルム、スライド、模型その他をご出品下さるようご案内申し上げます。なお、シンポジウムの概要は Preliminary Program の通りであります。

#### Preliminary Program

##### Sessions

- a) Propellants, Propulsion and Pyrotechnics
- b) Materials and Structures
- c) Flight Dynamics and Astrodynamics
- d) Aerodynamics
- e) Aerospace Environment
- f) Spacecraft and Rockets
- g) Electronics Components and Devices
- h) Space Communications, Telemetry and Trackings
- i) Guidance and Control
- j) Systems Engineering (including Range Operation and Support Systems)
- k) Space Science
- l) Balloons
- m) Space Medicine and Biology
- n) Space Law
- o) National Space Program (including Activities of Institutions and Societies)